



日本共産党 北区議会議員

のの山けん 区政レポート

<http://kyoukita.jp/nonoyama/> nonoyama@kitanet.ne.jp

No.380 2016.2.3

日本共産党北区議員団

〒114-8508 王子本町1-15-22

ご相談はお気軽に **090-2156-3510**

北区のマイナンバー問い合わせ窓口

コールセンターが**無料**に



コールセンターの無料化を求めるのの山区議 = 2015年第4回定例会

今年1月からマイナンバー制度（社会保障・税番号制度）が本格的に導入されました。北区はこのほど、マイナンバーに関する問い合わせ窓口である「北区個人番号カードコールセンター」を、2月から無料化すると発表しました。

日本共産党は、昨年秋の決算特別委員会でコールセンターの無料化を提案していました。また、のの山けん区議は11月の第4回定例会個人質問で、「国の都合で進める制度なのに、なぜ相談者が料金を負担しなければならないのか」との批判を受

けて国が11月2日から無料のマイナンバー総合フリーダイヤルを開設し、このことを指摘、区のコールセンターも、すみやかに無料にすることを求めました。

さらに再質問では、すでに荒川区が無料化にふみきつていることも紹介、北区でも無料化するため、のの山区議は、800万円（1000万円程度）であるとの区の答弁を引き出しました。

2月からは個人番号カードの交付および交付のための予約受付が開始されます。区は、今後のマイナンバーについての問い合わせは、新しいフリーダイヤル（下記参照）に電話するよう呼びかけています。

北区個人番号カードコールセンター
0120-08-2078 (フリーダイヤル・無料)



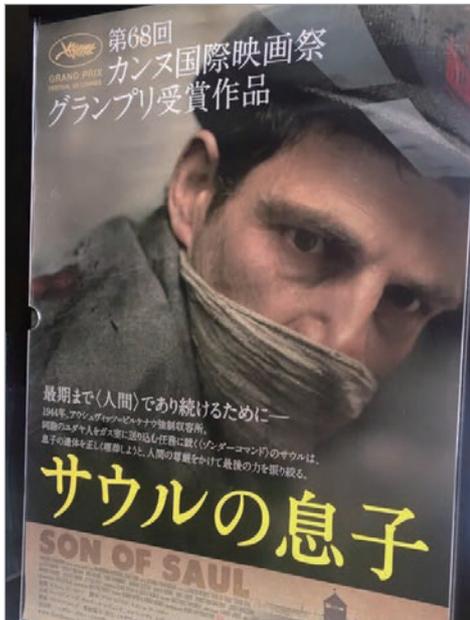
都市計画道路事業化計画案 **抜本の見直しを**

1月28日、都庁内で開かれた都市計画道路第4次事業化計画案についての学習交流会。地域の実情を考慮しないで引かれた計画線が、各地で深刻な矛盾を生んでいることが明らかに。住民本位の計画となるよう、抜本的に見直すべきです。(のの山けん)

民団北支部新年会「慰安婦」問題解決の努力はこれから

1月31日、銀座アスター赤羽賓館で在日本大韓民国民団北支部の新年会（写真）が開かれました。

昨年末、両国外相の間で交わされた日本軍「慰安婦」問題をめぐる日韓「合意」についての言及も多数ありましたが、私は「現在、韓国ナヌムの家から元『慰安婦』の方々が来日し、当事者ぬきの『合意』に批判の声もあげています。この『合意』は、囲碁に例えるなら碁盤に置かれた最初の碁石に過ぎず、最終的、不可逆的な解決になるかは、これからの努力次第です」とあいさつさせていただきました。（のの山けん）



独裁の対極に存在する人間性

映画「サウルの息子」

アウシュヴィッツ収容所の凄惨な実態描く

こんな映画は初めて観た。

アウシュヴィッツ強制収容所を舞台にした映画は数多い。例えば、メリル・ストリープ主演の「ソフィアの選択」は、奥深いテーマと迫真の演技で見事な告発映画として成功した。しかし、この「サウルの息子」は、ドラマ的要素を極力排し、まるでドキュメンタリー映画を観ているかのようなリアルな描写で、凄惨な収容

所の実態に迫る。

その手法は、1人称のカメラワークともいべき撮影方法だ。映画は冒頭からゾンダーコマンド（収容者の中で死体処理などの任務を任せられた部隊）である主人公サウルに密着し、カメラはサウルの目となつて情景を捉える。あえて余計なものを取り込ませないことによつて、観客はサウルに同化し、サウルが味わうのと同じ恐怖を体感する。

にふれて「負の遺産

としての歴史を、人類が忘れずに1つのトラウマとして抱えていくことによつて、「それぞれの民族が、それぞれの負の遺産を忘れてはならない」と語つたとのことだが、昨今のドイツだけでなく、ハンガリーでも歴史を見すえた力が生まれ続けていることに感嘆の思いだ。

民族が忘れてならない負の遺産

この作品が長編デビュー作というネメシユ・ラーズロー監督が、1977年生まれというのにも驚かされた。来日記者会見では作品の主題

主人公が見せる一瞬の笑顔

終始一貫、息がつまるほどの重圧を感じさせる映画の中で、一瞬だけ見せるサウルの笑顔。どんな独裁も人間としての尊厳を奪いつくすことはできないことを示す印象的なシーンだ。（のの山けん）